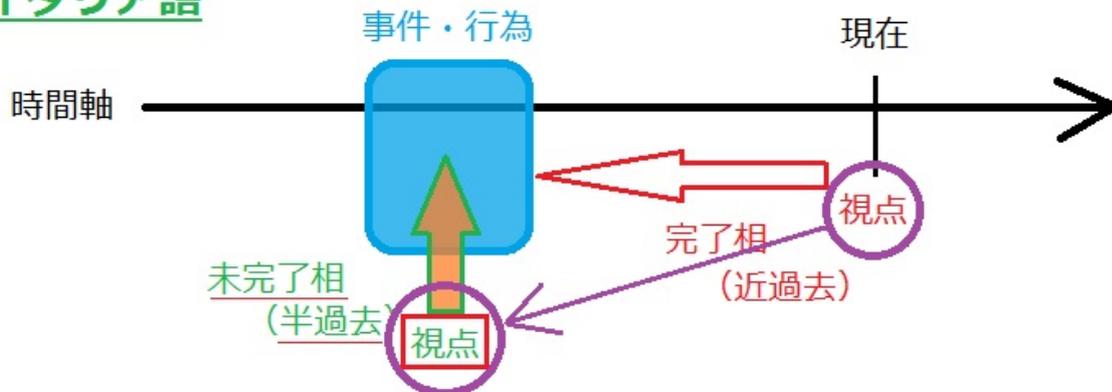


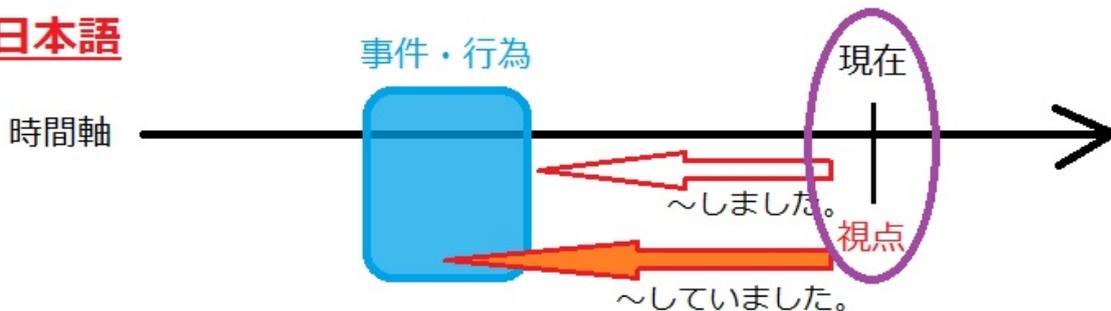
2. 半過去 ② 相 (アスペクト)

イタリア語



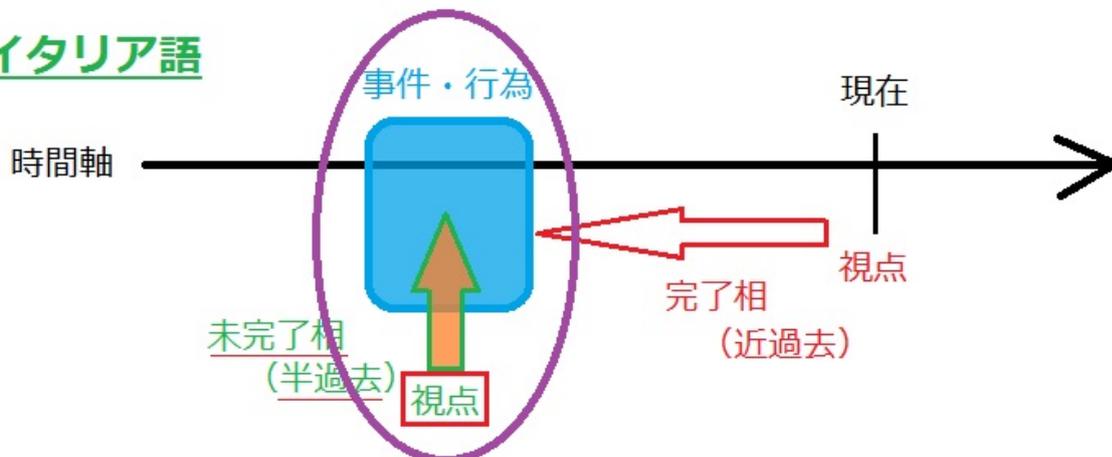
通常 (完了相)、話し手の視点は現時点に置かれているが、未完了相では、これが話題となる過去の事件・行為と同じ時点へと移動することになり、この時点ではその事件・行為がいつ完了するのは分からない。

日本語



一方、日本語では視点の移動はなく、話題となる事件・行為が完了したものとして語られるか、それとも進行中のものとして語られるかという違いがあるのみ。

イタリア語



こうしたことから、日本語では「~していました」と表現される文も、**tutto il giorno**「一日中」、**fino a**「~まで」、**per dieci anni**「十年間にわたって」など、時点ではなく一定の期間や動作の起点と終点をはっきりと示す表現があれば、イタリア語では半過去ではなく近過去を使うことになる。